

平成30年度 第1回総合開発委員会会議録（要旨）

【開催日時・場所】

平成30年6月20日（水） 13：30～ 八雲町役場第1・2会議室

【出席者】 委員：舟田進一、木村滋、刀禰清貴、秋松等、富田直和、長江隆一、
酒井正俊、小笠原英毅、大野博子、吉田久子、小出政彦、佐藤馨、
東間和浩

町 長：岩村町長、吉田副町長、萬谷副町長、田中教育長、総務課長、
財務課長、地域振興課長、企画振興課長、企画振興課参事、
企画振興課企画係長、企画振興課企画係

傍聴者：なし

【要 旨】

- 新八雲町総合計画後期実施計画（平成25～29年度）について説明した。
- 新八雲町総合計画評価報告書（平成29年度実施分）について説明した。
- 事務事業等見直し方針の進捗状況について説明し、質疑を受けた。

【内 容】

1. 開会

2. 辞令交付

3. 町長挨拶

4. 会長・副会長選出

会長：社会福祉協議会会長 秋松 等

副会長：八雲商工会長 服部 雅彦

5. 議事

- (1) 新八雲町総合計画後期実施計画（平成25～29年度）について
資料1、資料1-1について企画振興課企画係長より説明。

・質疑なし

(2) 新八雲町総合計画評価報告書（平成 29 年度実施分）について

資料 2 について企画振興課企画係長より説明。

- ・質疑なし

(3) 事務事業等見直し方針の進捗状況について

資料 3 について行財政改革推進室推進係より説明。

- ・質疑

(委 員)

・No. 9「ふるさと応援寄附金奨励事業」について、年々伸びてきているがその要因は何か。

(町)

・現在 A コースと B コースを設け、A コースは丘の駅をとおして実施、B コースはさとふるをとおして実施している。伸びは B コースの寄附が多くなってきており、事業者が在庫を確保できていることがのびてきている要因となっていると考えている。

(委 員)

・No. 59「大谷泉源管理」について、受益者によって要望が違っているということだが、どのように違っているのか。

(町)

・受益者によって要望が違っている部分については、現状にある温泉を長く使用し続けていきたいということと代替措置ということと別に温かい水を確保するという趣旨の考えもあるので、各々の農家さんによって考え方が異なっている。

6. その他

(委 員)

・資料 2 の 5 ページに記載のある「北渡島檜山 4 町地域連携推進協議会「食」と「観光」推進部会」について、シンガポールで行った事業について教えていただきたい。

・資料 2 の 10 ページに記載のある公園の維持管理について、先日行われた落部つつじ祭りに参加したが、会場の落部公園のベンチやトイレが老朽化しており見栄えが悪かった。今後どのようにしていくのかをお聞きしたい。

・資料 2 の 10 ページに記載のある公衆浴場について、前回の総合開発委員会でも昭和湯について質問したが、その後の進展はどのようになっているのか。

・資料 2 の 20 ページに記載のある町広報誌について、個人的に大事に保管している。開町 100 周年時に広報用のファイルを作成したと思うが、今後広報誌を綴じるファイルを町で作ったらどうか。

(町)

・1つ目の北渡島檜山4町地域連携推進協議会「食」と「観光」推進部会についてだが、平成28年度、29年度の2か年で海外での販路拡大を目指しているものとなる。平成28年度は部会の委員および各町の職員が行っている。事業者を連れていかないと今後につながらないとの反省を踏まえ、平成29年度は事業者を追加してシンガポールに行っている。成果として、せたな町の事業所がシンガポールの寿司屋と商品の商談を行っている。平成30年度はこれまでの成果を改めて確認する年とすることから、4町連携での海外プロモーションは実施しないとしている。

(町)

・2つ目の落部公園についてだが、公園緑地推進室が担当となっており、現状を確認してから対応させていただく。

・4つ目の町広報誌についてだが、委員おっしゃるとおり、開町100周年時にファイルを作成していた。今のところ、広報誌を保管することが一般的になっているかとなると首をかしげるところではあるので、即答してやるとは言えないかと思う。また町民自治推進委員会においても、広報誌だけではなく、違う情報媒体を活用したらどうかという意見もいただいているので、紙に限らず、ホームページやSNS等の活用も検討していきたいと思う。

(町)

・3つ目の昭和湯について、ご家族が函館におり町と何度か話し合いをしている。その中で運営を希望する人もいて、建物の内見もしている状況である。その後は昭和湯のご家族と運営を希望する方のやり取りをすることとなっており、町としては状況を見守っているというところである。

(委員)

・資料2の評価報告書の在り方について、5か年計画のうち単年度を評価するというのであれば実施したということで書いてあるので、我々としては意見が出にくいと思う。それであれば5か年のうちの何パーセントができたのかという評価を書いてもらえれば議論できるかと思う。

(町)

・委員おっしゃるとおり、文章で記載するとそれ以上のものはないと思う。数値目標を設定すれば評価しやすいというのはもちろんなので、そのような手法を取り入れるように検討していきたい。

(町)

・次回の会議は、例年12月に新年度予算の主な事業についてご説明する場を設けているので、時期がきたらご案内する。

7. 閉会